



▲通詞大橋開通 天草下島と天草郡五和町二江の通詞島をつなぐ通詞大橋の開通式が5月13日に行われました。架設された橋は長さ184m、幅員5.25mで総事業費2億円です。橋の完成は漁業機能ならびに島民の福祉の向上に大きく寄与するものです。



▼長野バイパス開通

国道268号線の長野バイパス（水俣市長野）が4月11日開通しました。同バイパスは国道3号線との分岐点に当り全長1,340mで、165mのトンネルでつながっています。同バイパスは国道268号線改良工事の一環で、南九州の産業、観光の大動脈としての期待を担うものです。

▲川尻バイパス開通

熊本市川尻町付近の国道3号線の渋滞を解消するため、6年がかりで建設が進められていた川尻バイパスが4月10日開通しました。同バイパスは起点の南高江町五反田から下益城郡富合町杉島までの延長3.2km、3号線沿線の自動車公害もいくぶん緩和されそうです。



四、その他
二十歳未満の重度の障害児を対象とした「特別児童扶養手当」「医療費の助成」「保護者が亡くなった後の障害児の将来

◇盛り上げるボランティア活動

——人間性豊かな地域社会の創造をめざして——

良好な生活環境の中で、生き甲斐のある安定した、心のふれあう豊かな生活を営むことができる福祉社会の実現、これは私達すべての願いであります。

しかし、福祉社会の実現のためには、なによりも、まず、お互いひとりひとりが信頼と理解の上に立って、それぞれの立場で、積極的にそして主体的に、役割と責任を分担していくことが一番大切なことと言えます。とりわけ、生活の場としての地域において、皆ながら、それぞれの力に応じて奉仕し、参加し、励ましあうことによって、はじめて連帯感にあふれた人間性豊かな地域社会が創造されるものといえましょう。

そのために期待されるのが、福祉の心に根ざしたボランティア活動なのです。

ボランティア活動とは、「自分ができる範囲で、自分達が住む地域を、自ら進んで、よりよくしていこうという働きである」ということができます。ですから、ボランティア活動は、決して難しい

を考えた「心身障害者扶養共済制度」あるいは、公的援助を容易にするための「療育手帳」「身体障害者手帳」の交付などがあります。

ものではなく、誰れでも、いつでも、どこでもできるものなのです。

ボランティア活動は我が国ではまだ比較的最近のことであり国民の間にはまだ比較的に十分理解されておりませんが、近年急速に発展拡大しつつあることは社会福祉活動への市民参加という意味で極めて重要なことです。特に社会福祉事業を変化させ発展させていく上で大きな役割を果たしているものといえます。

現在県内におけるボランティア活動は依然として施設に対する活動が主体となっています。近年地域における活動が増加しつつあり、その実態としてはねたきり（独居）老人や心身障害児（者）等の在宅対象者に対する援護（助）活動は勿論のこと、各地域における保健衛生、環境美化（保全）あるいは児童の健全育成、非行化防止等多種多様にわたる活動が実践されつつあります。

そのうち、一つの特徴は児童の健全育成のためのボランティア活動です。この

ことは時代の要請でもあり、また活動の開始に特別の抵抗もないため各地域において各階層の人々が多数活動中です。その内容としては、人形劇をもって子供会の育成にあたりつつあるもの、あるいは歌や遊び、作業を通じて児童の心身の育成をはかっているグループ等活動が長年月に及ぶものほか、近時児童の登下校時における交通指導や柔剣道の指導、或いは危険箇所点検と改善活動や遊び場の設置運営に対する協力活動、そして新入学児童のためのカギツ子教室の開設や、在宅心身障害児に対する援助、学習、機能訓練活動等枚挙にいとまがありません。その実践者も主婦、老人、中高生をはじめとして、公務員、会社員、勤労青年、農業、商工業者、大学生等各層に及びその活動も大小強弱の差こそあれ県下各地においてみることが出来ます。

なお、今後ボランティア活動はこれから大きくのび、益々多くの人々がこの活動に参加するようになることは間違いありません。一層の盛り上りを期待したいものです。



（キャンデルのついでい）や「やっと登った裏山」のことを思い出して「あと一週間ぐらい泊りたかったなあー。」と思いました。それほど自然の家がたのしかったのです。……

——（以下・略）——

このなかで「人とのふれあい」「集団宿泊生活」「自然とのふれあい」——など少年が自分をつめ、成長の糧を多くみつけていることが感じられます。

自然とのふれあいは、子どもにとっては偉大な発見の場であり、自然からの教訓は偉大な発見の場であり、自然からの教訓は偉大な発見の場です。自然のなかに連れていくだけでなく、その自然に「働きかける」という活動が草木、動物、地質、岩石、水の流れ、太陽や星などにふれることは少年期の魂をゆさぶるものです。

「野外における活動は、観察と宇宙のおどろくべき不思議の数々を知る学校である。」といわれる。

このような自然とのふれあいが少年の健全な発達に不可欠のものです。現代の少年たちは都市化、工業化の著しい進展のなかで自然とのふれあいがすくなくなっています。

この少年たちを自然につれもどす場として「少年自然の家」は設置され、「自然を友に」を生活のめあてとして集団宿泊生活と自然に親しむ野外活動をすすめる健全な少年の育成に寄与しています。